

## 絶滅危惧種コマホオジロを救え

侯笑如

北京観鳥会

訳 福井和二

ここは、荒地となって久しく、もう一度脚を踏み入れてみた。

1羽に鳥の声もなく、生息は絶滅に向っている。コマホオジロ(栗班腹鴉 *Jankowskii*)それは不幸に見舞われているものの一員である。国際鳥類保護連盟が鳥類の生存状況について危機の心配がない種から、危機に近い種、危機に曝されている種、危機に瀕している種、絶滅に近い種などを評価している。この評価のによれば、現在危機に瀕している種に該当しているが、彼らはむしろ絶滅の危機に瀕している種である。個体群の数は不明だが下降しており、生息地は絶えず崩壊に曝され、人の干渉と彼ら自身の原因により、今将に一見平凡なこの小鳥に絶滅の危機が逼っている。

コマホオジロはちょっと見るとホオジロに似ているが、雄のコマホオジロの腹部に栗色の円形の斑があり、雌ではこの斑が薄いか場合によっては見られない。しかし、灰色の腹部はホオジロの褐色の腹部と明らかに異り識別は容易である。この他コマホオジロとホオジロは鳴き声が異なる。

コマホオジロは1888年TaczanovskiによりIbisに発表され、最初はアジア大陸東縁のウスリー地区と朝鮮との国境附近の数百km四方にのみ生息と発表された。さらに、我が国の東北地方東寧において唯一繁殖地域が明らかになり(Yamashina, 1957), 1966年、傅桐生と鎮鵬の《コマホオジロの分布と繁殖習性》の論文の中に、東部沿海地区のウスリー河周辺に分布し、我が国の琿春、延吉一帯に分布し、西では吉林省と内蒙古の境界、大興安嶺南端の東側にも分布し、繁殖しており、この地域では留鳥である。上述のほか黒竜江省の鏡泊湖、阿城、帽儿山、ハルビン、対青山、遼寧省の遼陽、河北省の北戴河および北京等に僅かながら記録がある。

歴史的にはコマホオジロは少なからず見られ、そのうち個体数が比較的把握されているのはロシアで、中国、朝鮮との国境沿い図們江東岸の波西耶特(波射特)湾地域である。1970年代、この地域ではコマホオジロはよく見られる鳥だった。60年代の中ごろには数百対がこの辺りで見られたが、1977年には全く繁殖記録がなくなった。ロシアでは以来20年以上もコマホオジロの記録は見られなくなった。絶滅したものと思われる。朝鮮のコマホオジロの記録は少なく、当然ながら中国やロシアから分散した僅かな個体が見られた程度で、分布記録の意義は大きくない。

中国におけるコマホオジロの状況も楽観できず、その命脈は甚だ細い線で繋がれている状態である。

1966年傅桐生等が論文中に指摘している。大興安嶺東麓南端の低い砂丘の灌木叢に夏冬を通して優占種として、ラインセンサスで10羽/時の確率で見ることができ。次いで、山麓の草原台地で1~10羽/時の確率で、さらに、吉林省西部の砂丘灌木叢、草原で1/時の確率で見ることができ。1965年冬季の調査において、徳龍崗黒頂山一帯で25羽/時の確率で見ることができると報じている。しかし、1994年では、趙正階等が吉林省腰坨子、榆樹台、琿春における調査で3ヶ所あわせて340~350対と明らかにし、10年後にはこれらの地域でも見られなくなるのではないかとしている。

コマホオジロが次第に絶滅していく事態を人々は重視し、1999年から、高偉教授およびその学生たちが鎮賚研究基地において、次々とコマホオジロの繁殖行動と生息環境の選択に関する報告を発表した。IUCNのレッドデータブックによるとコマホオジロは危惧種とされている。(危険原因C1、今後10年あるいは3世代内(さらに最大値100年を採用)、成熟個体数が継続的に10%減少)、C2a(成熟個体数の推計が1000羽以上)。

しかし、コマホオジロの消失は止まったわけではなく、高偉教授の研究結果後間もないというのに、鎮賚のコマホオジロは消失した。結果外国の鳥類関係者はコマホオジロを重要な鳥類として、向海における2003年の目撃を最後とした。2001年に白城で大体100羽といわれてから2007年には、たった2羽となり、その繁殖は不成功に終わり、2008年、コマホオジロは白城から消失してしまった。現在コマホオジロの生息は以下の2ヶ所、その1つは図木吉で、大体100対と言われるが、人によっては十数羽と言われている。他の1つは科尔沁保護区附近、50対と言われるが正確な調査はない。

コマホオジロが絶滅危惧に至った今日、コマホオジロの個体数の調査により比較的明らかになった状況を、世界に対して頻繁に明らかにせず、その生息地の環境の喪失も明らかとなっておらず、非常に怪しげな領域となっている。彼の危急度の等級を引き上げるための、十分なデータが足りないことを知り、調査に必要な経費の申請をした

いと考えたが、別な程度の低い規制を受けた。しかし、一つの種の絶滅の速度の早さに人々を驚き、我々はゆっくりと落ち着いて万全な準備をする暇がない。したがって現在我々がもっているデータでは、世界におけるコマホオジロの個体数は、1000羽を超えず、500羽という可能性もある。当然、ほかに僅かな数のコマホオジロが何処かに密かに生息していたとしても、東北地方の大草原が大々的な開拓をされている状況では、彼らの生息する環境は刻一刻と減少し、人々の大きなトウモロコシや羊肉の需要に、小さな小鳥たちが敵するものではない。

コマホオジロ自身の生息地選択に対する深刻な要求は、彼ら他の鳥類と比較しても、さらに人の活動から大きく影響を受ける。

シベリアアンズ(西伯利阿杏 *Amerniaca sibirica*)<sup>1</sup>はコマホオジロの生活中に重要な関係をもっており、繁殖期に雄がその樹上で囀り、雌が採食して帰ってくると、巣の近くの枝上にしばらく留まる。ニレ(大果榆 *Ulmus macrocarpa*)もこれに代わるが、シベリアアンズが最も多く選択されている。シベリアアンズの少ない所にはコマホオジロは生息しないが、シベリアアンズが多いからといってよいわけではない。我々は今年6月科尔沁保護区附近で観察したところ、シベリアアンズの密度が大きく、樹高1.8mを越えるとコマホオジロはホオジロに取って代わられる。この他、コマホオジロの巣はバイカル針茅(*Stipa baicalensis*)<sup>2</sup>と大油芒(*Spodiopogon sibiricus*)<sup>3</sup>で作られており、かつこれらの中に、或いはこの他シベリアアンズの樹下に巣が造られており、これにより両種の植物の数および被覆度はコマホオジロの営巣場所選択に重要な要因となっている。しかし、草原開墾の拡大、放牧の過密化などに従って、営巣選択に可能な環境が減少した。また、放牧されている牛や羊に巣や卵を踏み潰され、人に卵や親鳥を捕獲されるなどして、繁殖成功率の極端な低下をもたらしている。1999年の研究によるとコマホオジロが巣造りに入ったものが45巣、産卵した巣が31巣、孵化した巣が14巣、最後に巣立ちした巣がわずかに5巣、繁殖成功率11.111%。2000年にはコマホオジロが営巣始めたのが21巣、産卵した巣が19巣、孵化したものが7巣、最後に巣立ちした巣が4巣、繁殖成功率は19.05%と報告され、両年の繁殖成功率は非常に低く、20%に充たなかった。この論文中、人により卵を盗るなどの干渉により被る損失が損失全体の25.5%に達し、心ある人を嘆かせている。

自然環境の変化もコマホオジロの生存に極めて大きな影響がある。筆者による《コマホオジロ個体群の数量変化の分析》の文中に、気温と水分はコマホオジロの個体数に影響する主要な気候因子とされ、1988年から10年は東北地方で大干ばつが続き、霍林河等いくつかの流れが止まりコマホオジロの生存に言い尽くせない大きな影響を与えた。この直接的な影響を除いても、カッコウによる托卵の影響もあり、カッコウの本来の托卵は主にヨシキリであるが、湿地の消失がヨシキリの消失につながり、コマホオジロへの托卵が多くなった。

2008年、我々が得た情報では、科尔沁保護区附近で発見されたコマホオジロの繁殖地は、以前我々が、簡単な調査をおこなったところで、調査した環境中に多く見られる植物は土庄綉線菊<sup>4</sup>、棉団鉄線蓮<sup>5</sup>、西伯利亞遠志<sup>6</sup>、大果榆<sup>7</sup>等である。生息環境中のその他の鳥類はホオジロ、アカアシチョウゲンボウであった。我々が調査した時期はコマホオジロの繁殖中末期であり、そのとき、土地の人々は10日ほど前から容易に雄の囀りを見ることができたと話していたが、我々の調査期間にはこのような現象はあまり見られなかった。毎朝4時から7時の時間帯にはコマホオジロの行動は活発になり、常に昆虫を捕食するのが見られ、以前の文献によるとコマホオジロは育雛時に直翅目の昆虫を好んで食べるとあるが、われわれのこの地域での観察では直翅目の幼虫を捕食しており、本地では直翅目昆虫の数が多くない。我々の2日間でのラインセンサスで、43羽のコマホオジロを観察したが、その内の2羽は巣立ちしたばかりで、まだ飛行能力が充分でない幼鳥であった。同行の保護区職員はほかに5羽の幼鳥を見ている。我々の2日間の同一地点での観察中に2回、雌が数本の黄緑色の細い巣材を銜え、数秒間枝先に留まった後、斜面のアンズの茂みへ消えた。すでに本年2回目の巣造りの準備を始めていると思われる。個体数密度=調査個体数/(調査距離×幅)の公式により計算し、この区域のコマホオジロの密度は230.22羽/km<sup>2</sup>であった。この密度は決して少ない数ではないが、我々がGPSで定点でわかったこの種の生息環境は我々の考えている地点附近の僅かに0.3301km<sup>2</sup>でしかない。このように小さい繁殖地は僅かな小群しか許容することができず、かつ、火災や人為的干渉を受けたとき容易に壊滅してしまう。

この一つのコマホオジロの小群の消失は、コマホオジロが壊滅への流れを逆転することができない方向へと動いている。現在、我々この個体群の救出挽回にまだ僅かな望みをもっている。先ず当然 コマホオジロの分布域に対して、生息に適したすべての環境調査を行ない、この群の個体数を知り、あわせてその越冬地域を明らかにする。昔からコマホオジロの分布域は決して大きくはなく、草原が開墾されるにしたがって益々少なくなっている。全面的な調査を行なうことにより決して不可能なことではない。次にコマホオジロが脅威を受ける等級は現在絶滅危惧IB類(EN)であるが、今日の状況に照らして、絶滅危惧IA類(CR)と脅威を受ける標準を1ランク上げるべきで、

各級の保護種ランク中に組み入れ、保護する法律による根拠をめざして努力すべきである。三つ目は保護区と地方政府は当然繁殖地や越冬地に対して嚴重な保護を行ない、柵囲いにより牧羊などが保護区へ入らないようにし、アンの伐採を禁止し、野火の防護策を施して繁殖成功率向上を保證することである。最後に、保護宣伝を行ない、卵や雛の持ち去り、鳥の捕殺行為をなくすことである。

コマホオジロは、將に10年以内に地球上から消失する、継続的繁榮が下降している現在が決定的な時期である。

訳注

- \*1 シベリアアンズ(西伯利阿杏 *Amerniaca sibirica*) ;バラ科, サクラ属, 東北地方では高さ2m以下の灌木で南斜面に生える, 東北, 華北に分布.
- \*2 バイカル針茅(*Stipa baicalensis*) ;イネ科, ハネガヤ属, 東北, 内蒙古, 河北省の乾燥草原に分布.
- \*3 大油芒(*Spodiopogon sibiricus*) ;イネ科, アラススキ属, 東北, 華北, 西北, 華東などに広く分布
- \*4 土庄綉線菊(*Spiraea pubescens*) ;バラ科, シモツケ属, 東北, 華北, 陝西, 甘肅, 山東, 安徽, 湖北, 内蒙古, 朝鮮, ロシアなど広く分布
- \*5 棉団鉄線蓮(*Clematis hexapetala*)キンボウゲ科センニンソウ属, 中國における標準名は山蓼で綿花団花ともいう. 山西省, 山東省, 河北省, 内蒙古東部, 東北地方に分布.
- \*6 西伯利亞遠志(*Polygala sibirica*).センダン科, ヒメハギ属, 東北, 華北, 陝西省, 甘肅省, 青海省, 華東, 華中, 華南, 西南各地方とロシアなど広く分布.
- \*7 大果榆(*Ulmus macrocarpa*) ;ニレ科, ニレ属, 東北, 華北, 陝西, 山東, 安徽等に分布, 国外では朝鮮, ロシア東部, 蒙古に分布.